



社会に役立つ製品化を

専務取締役 川口将二

戦後42年、小資源国日本は、貿易立国として、品質・コスト・納期の面で他国の追随を許さず多量生産しこれを輸出にふりむける、“世界の工場”としての姿にいささかの疑問を挟むことなく邁進してきた。このためには、技術の革新、進歩に遅れをとった企業は存在し得ないという厳しい現実のなかで技術者を中心としたたゆまぬ努力が続けられた。

昨今の技術界は、新素材応用機器、ロボット技術、各種エレクトロニクス関連製品など新しい技術が急速に進展しています。一方、価値感の多様化によりお客様のニーズも多様化する中で、このニーズに応えられる技術力・開発力があってこそ、企業の存在意義があり、製品を通じて社会への貢献も可能となります。

当社は、昭和17年に創業して本年45周年を迎えることができました。偏に中部電力(株)殿をはじめとして各電力会社殿のご愛顧の賜物と感謝しております。社長以下8人でスタートした当社は、関係会社を含めると3000人余の従業員を抱える企業へと成長しました。今日の“愛知電機”は、創業者の経営理念である“和”、“技術の革新”、“信用”のそれぞれを、全社一丸となって団結し、各自の職務を通して実践した結果であると考えます。

創造的な技術の革新が激しい現在、愛知電機を来る21世紀へつなぐには、従来の技術力に、さらに新しい技術力を加える必要があります。

メーカーである当社は、お客様のニーズに応えられる機器を新技術を用いて製品化する開発力、技術力のみならず、品質と価格において、また生産性において他社との競争に勝てる製品を生み出す生産技術力や製造能力も重要なファクターであります。これら一つ一つの技術の積み重ねが、当社発展の原動力であります。

凄まじい程の技術開発が進展している中であって、技術者各人に期待することは、成功するまでは追求の手を緩めないねばり強さを発揮して頂くことであります。企業における研究開発は、プロジェクトを100つくってそのうち3つぐらいまで成功すればいいだろうという安易な考えは許されないのであります。また、今日の産業界では、新しい技術を用いた新製品を次々と開発しております。これらの開発スピードをみれば、のんびりと研究し、開発すれば良しとされないことは自明の理でありましょう。どんな製品をつくれれば、社会に役立つかを常に考えないといけない。しかも高品質で信頼性が高く、かつ安い製品をお客様に提供しなければならない。技術者といえども、一人一人が優れた経営的感覚をもって対処しなければならないと考えます。

最後に、日常業務の中で“何故？”という素朴な疑問を持つことが、技術革新の出発点であることを思うと、毎日の仕事に問題意識を常に持ち続けることが大切であると考えます。そして技術陣の地道な努力により、この技報がより高度な技術開発へのインパクトとなるよう期待します。